

日本学術会議 機能別委員会
科学と社会委員会科学力増進分科会（第1回）
議事要旨

1. 日 時：平成28年4月14日（木）12:00～13:30

2. 場 所：日本学術会議6階6-B会議室

3. 出席状況

出席者：須藤委員長、柴田副委員長、兵藤幹事、小松委員、那須委員、高橋委員、渡辺委員、
笠委員（8名）

欠席者：戸田山委員、澁澤委員、福田委員（3名）

事務局：石井参事官、熊谷専門職付

4. 配布資料：

議事次第

資料1-1 設置提案書

資料1-2 科学力増進分科会の活動について

資料2-1 情報ひろばサイエンスカフェの実施状況と今後の予定

資料2-2 情報ひろばサイエンスカフェ「日本の森林～その生理、生態、歴史」告知（福
田先生ご担当）

資料2-3 「サイエンスカフェ」開催の流れ

資料2-4 幹事会決定「サイエンスカフェに関する今後の対応について」新旧対照表

資料2-5 サイエンスカフェについて修正案

資料2-6 サイエンスカフェ講師登録一覧

資料2-7 サイエンスアゴラ2016（年次総会）企画内容

資料3 公開シンポジウム「これからの高校理科教育のありかた」主催提案書案

参考1 委員名簿

参考2 日本でのサイエンスカフェ開催状況マップ

参考3 「女子中高生夏の学校2015」開催要項

5. 議 事：

(1) 自己紹介、これまでの経緯説明および役員選出

出席委員の自己紹介が行われた。引き続き、互選により、委員長に須藤委員が選出された。
委員の同意を得て、副委員長として柴田委員、幹事として兵藤委員が指名され、了承された。
また、これまでの科学力増進分科会の経緯の説明が須藤委員長から行われた。

(2) 今後の活動について

■サイエンスカフェについて

須藤委員長より、資料1-2、参考資料2により、サイエンスカフェの現状の説明が行わ
れた。

日本学術会議としては、サイエンスカフェがこれまであまり行われていない地域に活動を
発展させていくべきなのではないかという問題提起がされた。

→予算については試案があるのか？

→予算はない。したがって、それぞれの先生は学会や地区部会などに行く機会を利用して
一緒に行くことを検討している。

2か月に1度の文科省とのサイエンスカフェについては継続。

今年の11月までは担当が決まっているので、次回、その後の担当を決める。

全国縦断サイエンスカフェとしては、ナンバリングが大事。分科会として、サイエンスカフ
ェとしてオーソライズしていく。

→シンポジウムを開催するのも良いのではないかと（年に1度程度）。
また、高知県でのサイエンスカフェについては2年前にも行った。高知県の市役所よりホールを借り、コーヒーなどは市役所が担当。
前日に学会の市民講演会があり、その翌日におこなった。そのようにすれば、ほとんどお金がかからない。同じように、様々な学会で、地方での講演会等の開催があるのではないかと。
今回は、高知工科大学と共同でサイエンスカフェを行う。日本地図に色がどんどんついていくようにしたい。

(サイエンスカフェの内規改定案について)

- ・シンポジウム等は幹事会での決定が必要。サイエンスカフェに限り、そのような手続きを踏まなくても主催できるとしているのが現行の規程。
現行の規程では、会員、連携会員が日本学術会議の主権を決めて良いこととなっている。この規定には歯止めが必要なのではないかと考えている。
会員・連携会員は科学力増進分科会の承認を経て主催または共催できるような規程に変えるのはどうか。申請のフォーマットを作ることを考えている。
それにより、ナンバリングも可能になる。
- ・科学力増進分科会での承認に当たっての条件は、以下の3つで良いのか
①小規模の会であること ②科学者と市民との間の双方向のコミュニケーションの場であること ③無償（又は実費程度）で開催されるものであること
→前提として、シンポジウムとの差だけが書かれているのではないかと
→学術の振興といった大本のところからはずれる場合は、承認できないのではないかと
→そうであるならば、そう書いておくべきなのではないかと
→内容的に変更が必要なものはこれまでもあった。内容についても、科学力増進分科会として承認するべきでは
→承認というプロセスにおいては、内容等についても見るべきだと思う。そのあたりをもう少し細かく書くべきかどうかについては別途検討する
→シンポジウム開催基準を準用した上で、簡略化しているのがこの規定なのではないかと
→後ほどシンポジウム等の開催基準はメールで送付する
→メールで意見をいただければ。
→気を付けるべきこととして、会員・連携会員がどこと組んでやるのかということが重要。それもチェックすべきポイントなのでは。
→申請様式の中にはそのような点も入れる必要がある。

■サイエンスアゴラについて

重要なミッションとして今後も継続。十分に宣伝しないと参加者が少なくなってしまう。学術会議を知ってもらい良い機会にもなるかもしれないので、みなさんからアイデアを集めたい。

6月に具体的な提案をいただき、議論予定。
どのようなものが求められているのかを含め、議論したい。

(渡辺委員より説明)

資料2-7に沿って、渡辺委員よりサイエンスアゴラについて説明があった。

- ・年に一度の活動を年次総会とし、通年の活動にするような形を考えている。
- ・7つの地方の拠点で、サイエンスアゴラネットワークを形成した。
- ・サイエンスアゴラ2016のテーマ「医・食・くらし」「教育・文化芸術・スポーツ」「震災復興5年」の3つのテーマに沿ったものを応募いただきたい。
- ・年次総会は11月3日（木）～6日（日）の4日間
できれば、学術会議には、学術コミュニティの代表として、キーノートセッションを1つ提案していただきたい。
- ・学術会議への期待
 - ①年次総会の共催（継続）
 - ②普段やっていることの成果発表のような形にしたいので、提言等の普段の活動の発

表のようなものが望ましい。

③アゴラの特徴は、科学者だけでなく、様々なひとが集まること。

複数のステークホルダーを追加。

学術会議から震災の件も出してもらえるとありがたい。

・キーノートセッション…会長くらいの人が出るもの？

提言全体を見わたした上でのテーマが必要+ふつうの規模のもの2、3か。

⇒アゴラについては締切が6月1日なので、メールで審議予定。

これに関連して、分科会メーリングリストを作成することが提案され、出席委員より了承された。

(欠席している委員については事務局から確認)

■女子中高生夏の学校について

これまで10年以上関わってきている。

担当者の負担が大きい+同じ団体にずっと講師を出し続けることが良いことなのか、という問題がある。

科学力増進分科会としては、主催という形としては毎年恒例のものとしては、続ける必要はないのではないかと考えている。

→なぜ学術会議が共催・主催することにこだわるのがわからない。

学術会議会員、連携会員が個人で講師となることはなんら問題ないが、同様の依頼の数が増えた場合に対応しきれない。

→学術会議全体の会員・連携会員に呼びかけて共催・主催を別としても学術会議の先生を呼びたいということで申込みがあれば、対応するのが良いのでは。

→それについては既にできるようになっている。

■高校理科教育検討小委員会

提言を踏まえ、今後も活動が必要なため、今後も活動を存続。

(3) これからの高校理科教育に関するシンポジウムについて

須藤委員長より、「資料3 公開シンポジウム「これからの高校理科教育のありかた」主催提案書案書」にもとづいて、説明が行われ、了承された。

(4) その他

今後、メールでもいろいろと審議できればと考えている。どうぞよろしく申し上げます

以上